

# こんにちは 日本共産党県議団です

いあつらん



(右から)びぜん光正、高村京子、石坂ちほ、小林伸陽、藤沢のり子、もうり栄子、和田あき子県議

6月議会前の知事への申し入れ (6月3日)

村井知事の任期中で最後の議会となった六月議会は、六月十七日から七月二日まで開かれ、日本共産党県議団からは、四名が一般質問に立ち、暮らしや雇用、福祉、教育、交通政策の充実等を求めました。

また、民主党政権の「事業仕分け」等で大幅に削減された、公共交通活性化対策や野性鳥獣被害対策予算の復活及び県独自の支援等を求めて、議会前の申し入れを行いました。

## 一般質問から

### 点字図書館に支援を ⇒ 相談があれば検討

高村京子議員は「上田点字図書館は、県身体障害者福祉協会が上田市に運営を委託し、上田市も人的・財政的に一定の負担をしているが、県内各地及び他県からも利用者がいる。県として支援できないか」と質問。桑島健康福祉部長は「関係者から相談があれば、共に検討していきたい」と答えました。



高村議員は、盲導犬等の検診がどこの地域でも無料で受けられる仕組みも求めました。

### 教職員の長期療休

⇒ 問題意識を持っている



もうり栄子議員は「県教委の統計で、60人に1人が長期療養・休職。中でも精神疾患の占める割合が多い。正規職員を増やし、教師一人当たりの負担を軽くすべき」と質問しました。山口教育長は「多様な児童生徒に対する指導等質的变化が背景にある。強い問題意識を持っている」とし、矢崎教育委員長は「手が多くなるほど(教師の)余裕が出てくるので国へ要望したい」と答えました。

### 女性保護施設の保育士は来年度以降も配置を

和田あき子議員は、中央児童相談所の専門職員体制を強化するよう県を質しました。桑島健康福祉部長は「職員の配置増は考えていない」と答えたため和田議員は「移転改築に伴ってぜひ増員してほしい」と念を押し、さらに女性保護施設で親に相伴って保護する子どものための保育士を、来年度以降も配置するよう求めました。健康福祉部長は「本年度の効果等をふまえ、検討して参りたい」と応じました。



### 大企業による 下請け切りと雇用の確保

びぜん光正議員は「200人もの大量解雇になるセイコーエプソンの、安曇精工等への業務発注撤退は、下請二法違反ではないか。セイコーエプソンに対して業務の確保を要請し、下請業者の仕事の確保、職を失った人たちへの雇用の確保など、県として支援すべきではないか」と質しました。黒田商工労働部長は「引き続き情報収集する。状況を注視する」との消極的な答弁に終始しました。

完成後5年

### 地すべり対策が続く「滝沢ダム」(埼玉県秩父市)を視察(5月7日)

今も尚、地すべり対策工事(1箇所10億円) 工事総額は2,300億円



### 遅霜被害の梨畑を調査

(6月4日・中川村)



石坂ちほ  
長野市



小林伸陽  
上伊那郡



藤沢のり子  
松本市



高村京子  
上田市・小県郡



もうり栄子  
岡谷市・下諏訪町



びぜん光正  
塩尻市



和田あき子  
長野市



こんにちは **日本共産党県議団**です

日本共産党長野県議団は、4～6月に佐久市・松本市・長野市・上伊那郡箕輪町で、七名の県議全員が揃っての「県政報告会」を開き、大勢の皆様にご参加いただきました。



↑ 佐久市会場《4月28日》



↑ 松本市会場《6月5日》



↑ 長野市会場《6月10日》



↑ 箕輪町会場《6月18日》

参加された皆さんからたくさんのご感想・ご意見をいただきました。一部をご紹介します。

前知事の時には良しにつけ悪しきにつけ、県会にはしっかりした骨がありました。今は長かった官僚県政に戻ってしまう気がします。

あまり身近に感じていなかった浅川ダムが進められたことは、ビックリです。

まず、7名の党県議が出ていることを心強く思います。7名よりこの先、1人でも増えることを望んでいます。

こうした席に初めてです。世の中、安心して暮らせることをお願いします。

元秘書が自殺してもニコニコしている(村井)知事は人間か?

県議の出ていない地区では県の様子ほとんどわからない。他党の議員の動きも分らず、空白に。

浅川ダム建設計画、反対してください。

我々の知らない事(知らされないようなこと)が皆さんの話で聞くことができて良かったです。

7人のサムライ(女性が多いからネーミングが悪いかも……)をとっても頼もしく感じました。

福祉と教育にもっと予算を使い、教育県の名に恥じないようにしてください。



**鳥獣被害対策で農政部長に申し入れ**

政府の「事業仕分け」により、国の「鳥獣被害防止総合交付金」予算が県要望額の4分の1になった為、5月20日、党県議団は地元市町村議と共に県農政部長に「国に対して満額予算実現を働きかけること」「県としての支援策」などを申し入れました。

**リニア新幹線 中間駅建設の地元負担・環境への影響は事前のアセスが必要!**

JR東海は、リニア新幹線を2025年度に開業する意向を示し、中間駅の建設費用は全額地元負担、仮にCルートなら南アルプスを貫通です。

びぜん光正議員は一般質問で「“地元”とはどこなのか? 県として環境影響評価(アセスメント)を行う考えは?」と質問。和田環境部長は「アセスは事業者が自ら行うべきもので、県が行うことは無い」との答弁でした。びぜん議員は「リニアの前に、在来線の足の確保をやるべき。南アルプスの貫通は、県民投票にかけてはどうか」と提案しました。

ご意見・ご要望をお寄せください。

**日本共産党県議会報告**

No. 15 2010年7月

発行/日本共産党長野県議団 〒380-8570 長野市南長野幅下692-2 長野県議会日本共産党控室  
TEL 026-237-6266 (直通) FAX 026-237-6322  
ホームページ <http://www.avis.ne.jp/~up/> E-mail [jcpngnkd@avis.ne.jp](mailto:jcpngnkd@avis.ne.jp)